

(注) 本日の各機関からの説明に当たっては、専門調査委員からの質問などを踏まえて作成した本資料に従って、宇宙開発戦略本部事務局から各機関に準備をお願いしています。

## 第14回宇宙開発戦略専門調査会の議事及び説明をお願いしたい内容

### 1. 資料作成依頼について

#### (1) 資料作成

##### A. 説明資料

依頼先省庁：

宇宙科学（惑星探査等）

文部科学省/JAXA

2016年度以降の国際宇宙ステーションの取組に関する国際調整の方針

文部科学省/JAXA

宇宙太陽光発電システム

文部科学省/JAXA、経済産業省/USEF

- ・説明資料の作成にあたっては、各省（機関）の担当する事業の現状と課題、各省の政策に関する概要と今後の方向性を盛り込んでいただけますようお願いいたします。
- ・各省（機関）で御説明いただく議題ごとに1つにまとめ、説明の際に委員が指定箇所を探しやすいようにページを打って下さい（その他様式は自由）。
- ・事前に委員から受け付けた以下の質問について、割り振りの省庁は回答をご準備ください。

##### B. 事業シート

別紙2の事業シートに貴省の「探査/技術/科学/有人」分野に該当する全ての施策の必要事項を記入いただき、ご提出ください。

依頼先省庁：

文部科学省、経済産業省

## 第 14 回宇宙開発戦略専門調査会の議事の予定

日時：平成 23 年 5 月 30 日(月) 16:00-18:00

場所：官邸 2 階 小ホール

(注) 説明に当たっては以下の指示に加え、別紙を踏まえてお願いします。

1. 宇宙科学（惑星探査等）

## 【16:00-16:28】ヒアリング

説明者：宇宙開発戦略本部事務局（3分）、文部科学省/JAXA（15分）、日本惑星科学会（10分）

（対文科省/JAXA）

- JSPEC 及び ISAS の事業概要、設立趣旨、プロジェクト選定プロセスの違い等を説明して下さい。
- JSPEC 及び ISAS の各プロジェクトについて各事業シートに基づいて説明して下さい。

## 【16:28-16:48】審議（20分）

2. 2016 年度以降の国際宇宙ステーションの取組に関する国際調整の方針

## 【16:48-17:12】ヒアリング

説明者：宇宙開発戦略本部事務局（4分）、文科省/JAXA（20分）

## 【17:12-17:37】審議（25分）

3. 宇宙太陽光発電システム

## 【17:37-17:50】ヒアリング

説明者：宇宙開発戦略本部事務局（3分）、文部科学省/JAXA（5分）、経済産業省/USEF（5分）

（対文科省/JAXA、経済産業省/USEF）

- エネルギーシステムとしての国策としての必要性を説明していただきたい。
- マイクロ波（電波）、レーザー送電に関するこれまでの研究実績、研究体制等を明確に示していただきたい。
- マイクロ波送電とレーザー送電、それ以外についても長短所を簡単に示していただきたい。
- 大学を中心に 30 年以上前から研究は行われており、検討委員会だけでなく基礎技術や実績等についても明確に示していただきたい。
- 輸送費についての見通しについてのデータについて示していただきたい。

## 【17:50-18:00】審議（10分）

4. 閉会

## 〇〇事業（ひとつの事業について2枚以内）

0. 担当部署：（担当府省庁・局・課・室など）

事業開始年度：〇〇年度

1. 事業目的（何のための事業か？）（複数省庁で実施する事業の場合は、自省庁の政策について記述のこと）

2. 事業概要（誰・何を対象に、どのような方法で、誰がやっているのか？）（複数省庁で実施する事業の場合は、自省庁の政策について記述のこと）

3. 事業期間・総事業費（事業開始から事業終了（見込み）まで）

年度									合計
予算									

4. どのような計画や目標をたててやっているのか？その計画や目標の達成度は？（複数省庁で実施する事業の場合は、自省庁の政策について記述のこと）

5. 成果及び事業評価（成果指標、その評価体制と実際の評価、評価の結果見直しをしたことがあればその内容）（複数省庁で実施する事業の場合は、自省庁の政策について記述のこと）

6. 関係省庁との協力体制

7. 主な委託先とその分担

平成23年5月23日

宇宙開発戦略本部事務局御中

三菱重工業(株)  
佃 和夫

宇宙開発戦略本部 専門調査会「探査/技術/科学/有人」に関する問題意識及び質問

1. 2016年度以降の国際宇宙ステーション(ISS)の取組に関する国際調整の方針について

- ① ISSへの参加において、これまでJEM,HTVの開発等日本の宇宙機器開発の技術力向上が図れたと共に、宇宙開発における国際的なプレゼンスも大いに向上したと認識している。今後は、厳しい財政状況の中、きぼうの成果を十分出せるような利用体制及び政策をお願いしたい。
- ② 2016年度以降のISS運用延長にあたっては、回収能力の獲得を含め、将来日本独自の有人宇宙輸送手段を保有するかどうかの戦略的な方針設定並びに取組みを期待したい。

2. 宇宙科学(惑星探査等)について

- ① 我が国は「かぐや」「はやぶさ」で世界でもトップレベルの成果を上げ、高い評価を受けている。
- ② 我が国が、国際社会における高い地位を維持し、発言力をさらに高めていくにあたり、国際協力による宇宙探査に主要な役割を担って参加し貢献することは有効な政策と考える。
- ③ 宇宙探査の成功は、震災復興を進める国民に明るい話題を提供し、国威の発揚、国民の活力増進に寄与する。
- ④ 中国・インドの月探査、欧米の火星探査に向けた活発な活動を受け、我が国の取組についての政策を打ち出して頂きたい。

3. 宇宙太陽光発電システム(SSPS)について

- ① 自然エネルギーへのシフトが叫ばれている中、SSPSは究極の自然エネルギー利用システムの一つとも考えられる。
- ② SSPSの経済性のみならず、実現に向けた技術開発ステップ、導入に向けたロードマップについて国際協力も視野に入れた検討をお願いしたい。

以上